

予土線で地域活性化を目指す

武田望叶 木藤晴天 井上航 坂本悠真 梅崎涼音
指導教員 兵頭禎憲

背景と動機

2019年～2024年
1kmあたりの平均旅客輸送人員
16.9%減
1列車あたりの平均旅客輸送人数
6.8%増



↓
汽車の数が減って使いにくくなる！

- 予土線を利用することで観光客を増やし、地域活性化につながると思った。
- 予土線の利用者が減っていることを知り、予土線を残していきたいと思った。

どの区間でも、
利用者数は減少
傾向にある

現状分析

現在予土線を利用していない人の多くは、一度も乗ったことがないのではないかと。そのことが、利用へのハードルを上げてしまい、新規利用者が増えないのではないかと。

仮説

予土線を利用するイベントなどで利用体験を積み重ねれば、普段の利用も増える。

仮説の検証手順

【予土線の利用促進】

- 乗り方ガイドを含めたポスターの作成。
- イベントを企画して、予土線を利用してもらうことで、予土線について知ってもらう。
- 予土線利用度調査を行い、どの程度の利用者がいるか、イベント実施やPR活動後に、利用者が増えるかどうか調査する。

今後の課題

- 仮説検証を行い、研究を進められるようにする。
- 実際に予土線に乗って沿線エリアを訪れるための活動計画を立てる。



【予土線のPR】

- 先輩が開発した予土線交流キャラクター「かぼん」などの、予土線に関する商品開発を受け継ぎ、予土線沿線活性化方法について研究をする。
- スタンプラリーの実施
- 予土線沿線地域を訪れ、何が有名かを調査する。
- 予土線沿線地域の名産品を仕入れ、イベントで販売する。

